科目名	マクロ経済学Ⅰ　　Macroeconomics Ⅰ						
科目担当者	山梨 顕友　　YAMANASHI Akitomo						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	経営学部・経営学科［専門教育科目　基礎専門科目］ 法学部・法律学科［専門教育科目　関連科目］					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	市場メカニズムは現代のほとんどの社会で希少な資源を人々に配分するために使われています。その一方で、政府の政策が様々な局面で民間企業の活動に影響を与えていることも事実です。特にそのような政策の中で注目すべきは、自由主義市場経済の国々でしばしば用いられる財政政策と金融政策です。これらの政策が経済にどのような影響を与えるのかについては様々な見解がありますが、どの立場を取るにしても各国での集計されたマクロな経済指標を考える必要がありそうです。						
授業の到達目標	①　さまざまな経済統計量について理解する。 ②　乗数理論について、理論が前提とする条件とそれから導かれる結論について理解する。 ③　IS-LM 理論について、理論が前提とする条件とそれから導かれる結論について理解する。						
授業計画・内容	1	マクロ経済学とは					
	2	経済統計量について　GDP 等					
	3	物価指数、産業連関表					
	4	大恐慌とケインズ経済学					
	5	所得と消費の分析（乗数理論）					
	6	財政政策（乗数理論）					
	7	貨幣					
	8	貨幣と利子率					
	9	利子率を考慮した場合の所得と消費の分析（IS-LM 理論）					
	10	財政政策（IS-LM 理論）					
	11	公債残高の資産効果					
	12	ハイパワードマネーと信用創造					
	13	金融政策（IS-LM 理論）					
	14	金融市場の変化					
	15	講義の内容復習					
授業外学修 (事前学修)	教科書の対応する部分を熟読しましょう。マクロ経済学では様々な経済のモデルを考えるので、既に習ったモデルとどこが違うのかに注意するとよいです。(2 時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	章末の問題や自分で用意した問題集を自分で解いてみて，類似する問題を解くことができるようになりましょう。もしできなければ質問しましょう。（2 時間程度）						
成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法			評価比率		到達目標との対応	
	定期試験 （ただし一部は課題提出で代替可）			100%		①、②、③	
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	井堀利宏『入門マクロ経済学　第 4 版』新世社						
参考文献							
その他	基礎的な数学計算について練習を行うことが望ましい学生には、併せて数学ステップアップ講座の受講をお勧めします。						